

2015年7月19日

報道関係各位



【本件に関するお問い合わせ先】
公益社団法人日本アメリカンフットボール協会
〒140-0001

東京都品川区北品川 1-16-1 舟正ビル 2F
TEL.03-3450-9360 FAX.03-3450-9361
E-mail: jafahq@americanfootball.jp
Web : http://americanfootball.jp

『第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会』
ー日本代表がアメリカに完敗 銀メダル獲得で大会終了ー

現地時間7月18日(土)※日本時間19日(日)、アメリカ合衆国オハイオ州キャンプトンのトム・ベンソン・ホール・オブ・フェイム・スタジアムで開催されている『第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会』が行われ、日本代表がアメリカ代表と対戦。攻守で2タッチダウンを奪うも、12対59で敗れました。この日で大会全日程が終了し、最終成績は1位アメリカ、2位日本、3位メキシコ、4位フランス、5位オーストラリア、6位韓国、7位ブラジルとなりました。

なお、この試合のゲーム MVP には、パス 22 回中 12 回成功で 141 ヤード、1 タッチダウン、1 インターセプトを記録した QB 加藤 翔平 (LIXIL ディアーズ) が選出されました。QB 加藤は、12 日に行われたアメリカ戦に続き 2 度目の受賞となります。

また、オールトーナメントが発表され、日本代表からはファーストチームに WR 栗原 嵩 (IBM ビッグブルー)、OL 勝山 晃 (富士通フロンティアーズ)、DB 砂川 敬三郎 (オービックシーガルズ) の 3 人が、セカンドチームには QB 加藤 翔平 (LIXIL ディアーズ)、RB 高木 稜 (IBM ビッグブルー)、WR 前田 直輝 (LIXIL ディアーズ)、TE 春田 崇博 (富士通フロンティアーズ)、OL 小林 祐太郎 (富士通フロンティアーズ)、K 佐伯 眞太郎 (パナソニックインパルス)、LB 天谷 謙介 (LIXIL ディアーズ) の 7 人が選ばれました。



日本代表 森 清之監督 (LIXIL ディアーズ)



完敗です。これが今の力だと思います。もう少しやれることはあったかもしれませんが、勝てるチャンスはあったかと言うと、そうでもない。今のままで同じ土俵で勝負するのは難しいかもしれない。今回感じたのは、バックフィールドのフィジカルの差です。ラインはほぼ思っていた通りに戦えたけど、それ以外のポジションで思うように戦えなかった。ランニングバック対ラインバッカーであったり、ランニングバック対ディフェンスバックのように、タックルの強さやフィジカルの強さでこれだけ差があると、試合を作るのは難しいです。今のレベルで、通用する部分が一つ二つあっても、勝機を見出すのは厳しいです。



日本代表 WR 木下 典明（オービックシーガルズ）
レベルの差があると感じました。勝負所でミスもあったのですが、オフェンスでこれだけ点を取られたのは話にならないです。



日本代表 QB 加藤 翔平（LIXIL ディアーズ）
フィジカルでまだまだ差があると思います。（アメリカと）埋まっているポジションはあると思いますが、これだけ負傷者が出てしまうと、総力戦とはいいつつ厳しい戦いになってしまいます。そこがまだまだ日本に足りない部分だと思います。プレイの精度については準備したものに関しては通用したと思います。（2度目のゲーム MVP について）QB が勝敗を握るポジションだと思っていますので、MVP に選ばれましたが、2 試合とも勝てなかったのはQB の責任かと思っています。負けた試合の MVP というのは自分自身で意味を感じていない。

日本代表 WR 栗原 嵩（IBM ビッグブルー）

（12 日の）初戦よりは攻めたプレイもできたので、個人的には良かったです。1 対 1 では勝っていたので、勝負どころでプレイを通してくれたら変わっていたかもしれません。個々の能力だけでなく、チームとしても何かを変えないと、この差はどうも埋まらないと思います。

（第 2Q のダイビングキャッチについて）加藤が良いところに投げてくれました。

（オールトーナメント選出について）個人としては、国際舞台で活躍することは自分で決めていたことなので評価してもらったのは嬉しいですが、チームの勝利に貢献できていないので、今後頑張るところだと思います。



日本代表 WR 宜本 潤平（富士通フロンティアーズ）

（アメリカに）対抗できない感じはしなかったです。このレベルなら勝てる相手なので、QB とレシーバーの精度、勝負どころの精度を上げていく必要があると思います。



日本代表 DB 砂川 敬三郎（オービックシーガルズ）

（アメリカは）スピードは日本人にないものを持っているので、日本でもそのレベルをイメージして日々精進するだけです。

（オールトーナメント選出について）初戦のフィールドゴールブロックだけで、自分の中では今大会で何もできていない。その悔しさを晴らすために、自分のチームに戻って見つめ直して、次に向けてしっかりやっていきたいと思います。

日本代表 OL 勝山 晃（富士通フロンティアーズ）

OL としては負けていない部分もあったと思うのですが、それがオフェンスに生きなかったというのはチーム力の差で足りない部分があったと思います。どのポジションが勝っているからといって試合に勝てるわけではないので、チームとしてもっとまとまってプレイの精度を上げていけば、アメリカに勝っていたかもしれないです。

（オールトーナメント選出について）全然選ばれると思っていなかったのですが、個人的に他国に対してやれている部分もあって自信も持っていました。（オールトーナメント受賞は）今後の励みにしていきたいです。

日本代表 DL 富田 祥太（オービックシーガルズ）

(タッチダウンについて) 個人的に初めてのタッチダウンだったので記念に残ったのですが、悔しい結果だったので4年後の糧にしたいです。

ゲームサマリー



日本がコイントスに勝って、レシーブを選択してスタートしたこの日の試合。日本は自陣20ヤードからのファーストドライブで、QB加藤 翔平(LIXILディアーズ)がパスを3連続で成功させファーストダウン更新。さらにRB高木 稜(IBMビッグブルー)の11ヤードラン、QB加藤からWR前田直輝(LIXILディアーズ)への14ヤードパスも決まり、敵陣38ヤードまで攻め込む。しかし、RB古谷 拓也(オービックシーガルズ)のランが2ヤードロスした後のセカンドダウン12ヤードで、QB加藤のパスがインターセプトされ、そのまま70ヤードのインターセプトリターンタッチダウンを許してしまう。2点コンバージョンも決められ、日本はいきなり8点のビハインドを背負う。

その後のドライブはスリーアンドアウトに抑えられるが、その直後の守備ではゴール前1ヤードまで攻められるも、相手のフォースダウンギャンプルを阻止。追加点を許さない。日本は次の攻撃もスリーアンドアウトに終わると、アメリカのランを軸とした攻撃を止められず再び失点して、0対16とされてしまった。

日本は第2Qに入っても、残り7分47秒にタッチダウンを許し、0対24とリードを広げられた。さらに、第2Qから変わったQB高田 鉄男(パナソニックインパルス)が自陣46ヤード、サードダウン1ヤードのプレーでサックされファンブル。これをリカバーされると、そのままエンドゾーンまで持ち込まれ、0対31とされてしまった。

得点を奪いたい日本は、再びQB加藤がフィールドへ。QB加藤は自陣38ヤード、サードダウン1ヤードの場面で、WR栗原 崇(IBMビッグブルー)へパス。WR栗原は、このボールに飛び込みスーパーキャッチを披露する。このキャッチで勢いに乗った日本は前半残り2分56秒、QB加藤がWR宜本 潤平(富士通フロンティアーズ)へ25ヤードタッチダウンパスをヒット。しかし、ツーポイントを狙うが失敗に終わった。ようやく得点を返した日本だったが、前半終了間際にも失点。6対38で前半を折り返す。



32点を追う日本は第3Q残り7分29秒、敵陣2ヤードからの相手攻撃で、アメリカのQBをサックしてファンブル誘発。これをDL富田 祥太(オービックシーガルズ)がエンドゾーン内でリカバーしてタッチダウンとなった。その後の2点コンバージョンは再び失敗に終わり、得点は38対12。しかし、日本はその直後の相手ドライブでタッチダウンを奪われ、12対45と点差が開いた。

第4Qに入っても日本は、思うようにボールを進められず。逆にQB高田のファンブルロスからタッチダウンを決められるなど、2つのタッチダウンで加点された。日本はパス獲得ヤード(225ヤード)で相手(208ヤード)を上回るも、計5サックを許した。守備では、ラン攻撃で205ヤードを許しアメリカの地上戦を自由にさせてしまった。

日本はアメリカに敗れ、第2回ドイツ大会以来12年ぶり3度目の金メダルに手が届かなかった。日本の銀メダルは、第3回川崎大会以来8年ぶり2度目。

試合の記録はこちらをご覧ください



http://usafootball.com/sites/default/files/gold_medal_box.pdf

■第5回世界選手権帰国報告記者会見のご案内

日本代表チーム帰国に合わせ、下記の通り帰国報告記者会見を行います。ぜひご出席いただきたくご案内申し上げます。

*別紙「取材申請書」にご記入のうえ、ご返信いただけましたら幸甚に存じます。

日時 : 7月20日(月・祝) 17:00~18:00
場所 : 成田空港第1旅客ターミナルビル 4階 応接室 S-3 (添付地図参照)
出席者 : 森 清之 (日本代表ヘッドコーチ)、
内容 : 第5回世界選手権を振り返ります

■第5回 アメリカンフットボール大学世界選手権大会 大会概要

名称 第5回 IFAF アメリカンフットボール 世界選手権アメリカ大会
The IFAF World Championship 2015

主催 IFAF [International Federation of American Football] (国際アメリカンフットボール連盟)

主管 USA Football

期間 2015年7月8日(水)~7月18日(土)

開催地 アメリカ合衆国 オハイオ州 キヤントン
[試合会場] Tom Benson Hall of Fame Stadium (収容 22,375名)
Earl Schreiber Cir NW, Canton, OH 44708

出場国 7カ国

対戦方式 上位ランク4チーム【グループA】、下位ランク4チーム【グループB】に分かれ、それぞれ2試合のトーナメント戦を行う。

【グループA】の全敗と【グループB】の全勝を入れ替え、上位4チーム、下位4チームを再構成。それぞれ4チームでトーナメント戦を行い、最終順位を決定する

※カナダ代表の欠場により、カナダ代表と対戦を予定されたチームがそれぞれ不戦勝となります

■試合結果

◇7月9日(木)

[Day1]

Game1 [12:00]オーストラリア 47-6 韓国

Game2 [15:30]フランス 31-6 ブラジル

Game3 [19:00]アメリカ 30-6 メキシコ

日本 (不戦勝)

◇7月12日(日)

[Day2]

Game4 [12:00]韓国 0-28 ブラジル

Game5 [15:30]オーストラリア 3-53 フランス

Game6 [19:00]アメリカ 43-18 日本

メキシコ (不戦勝)

※【グループ A】カナダは【グループ B】1 位へ降格、【グループ B】全勝フランスは【グループ A】4 位へ昇格し、それぞれのグループでトーナメント戦へ。

◇7 月 15 日（水）

[Day3]

Game7 [12:00]オーストラリア 16-8 ブラジル

Game8 [15:30]メキシコ 7-35 日本

Game9 [19:00]フランス×アメリカ

韓国（不戦勝）

◇7 月 18 日（土）

[Day4]

7 位決定戦 ブラジル（不戦勝）

5 位決定戦 [12:00]韓国 14-42 オーストラリア

3 位決定戦 [15:30]メキシコ 20-7 フランス

決勝戦 [19:00]日本 12-59 アメリカ

【最終成績】

1 位：アメリカ、2 位：日 本、3 位：メキシコ、4 位：フランス、5 位：オーストラリア、
6 位：韓 国、 7 位：ブラジル

■関連ウェブサイト

◇大会公式サイト <http://ifafworldchampionship.org/>

◇日本代表公式サイト <http://japan.americanfootball.jp/>

◇USA Football <http://usafootball.com/>

◇IFAF <http://ifaf.org/>

第5回 IFAF アメリカンフットボール世界選手権 アメリカ大会
日本代表選手(45名)

背番号順

年齢は大会開幕日(7月8日)現在

POS	#	名前	ふりがな	所属	出身校	身長	体重	年齢
WR	1	宜本 潤平	よしもと じゆんぺい	富士通フロンティアーズ	立命館大学	169	70	24
DB	2	東條 健人	とうじょう けんと	オービックシーガルズ	立命館大学	174	74	23
DB	3	石井 悠貴	いしい ゆうき	富士通フロンティアーズ	立命館大学	174	75	23
DL	4	平澤 徹	ひらさわ とおる	LIXILディアーズ	関西学院大学	179	92	26
LB	5	塚田 昌克	つかだ まさよし	オービックシーガルズ	立命館大学	175	88	32
RB	6	神山 幸祐	かみやま こうすけ	富士通フロンティアーズ	日本大学	171	80	28
DB	7	藤田 篤	ふじた あつし	富士通フロンティアーズ	日本体育大学	179	80	29
QB	8	高田 鉄男	たかた てつお	パナソニックインパルス	立命館大学	180	90	33
WR	9	遠藤 昇馬	えんどう しょうま	パナソニックインパルス	日本大学	180	88	24
QB	10	加藤 翔平	かとう しょうへい	LIXILディアーズ	関西学院大学	183	85	27
WR	11	前田 直輝	まえだ なおき	LIXILディアーズ	立命館大学	173	91	29
DB	12	今西 亮平	いまにし りょうへい	パナソニックインパルス	立命館大学	171	84	28
DL	13	平井 基之	ひらい もとゆき	富士通フロンティアーズ	立命館大学	182	99	33
DB	14	藤本 将司	ふじもと まさし	オービックシーガルズ	立命館大学	175	77	30
WR	15	宮本 康弘	みやもと やすひろ	LIXILディアーズ	法政大学	183	85	26
DB	16	三宅 剛司	みやけ たけし	オービックシーガルズ	立命館大学	182	78	31
LB	17	天谷 謙介	あまや けんすけ	LIXILディアーズ	日本大学	177	92	25
◎ WR	18	木下 典明	きのした のりあき	オービックシーガルズ	立命館大学	177	80	32
WR	19	永川 勝也	ながかわ かつや	LIXILディアーズ	関西大学	173	75	28
RB	20	古谷 拓也	ふるたに たくや	オービックシーガルズ	関西大学	173	78	38
RB	21	高木 稜	たかぎ りょう	IBMビッグブルー	京都大学	166	74	25
DL	24	飾磨 宗和	しかま むねかず	パナソニックインパルス	立命館大学	178	105	33
DB	25	砂川 敬三郎	いさがわ けいざぶろう	オービックシーガルズ	関西大学	170	77	24
K/P	26	佐伯 眞太郎	さえき しんたろう	パナソニックインパルス	立命館大学	180	80	23
DB	27	辻 篤志	つじ あつし	パナソニックインパルス	大阪産業大学	174	84	28
RB	29	李 卓	り たく	慶應義塾大学	南山高校	182	86	20
LB	35	竹内 修平	たけうち しゅうへい	富士通フロンティアーズ	日本福祉大学	183	93	26
○ DL	43	脇坂 康生	わきさか やすお	パナソニックインパルス	日本大学	182	115	46
○ LB	45	鈴木 将一郎	すずき しょういちろう	富士通フロンティアーズ	専修大学	180	90	35
DL	54	富田 祥太	とみた しょうた	オービックシーガルズ	日本大学	180	123	26
OL	57	斎田 哲也	さいた てつや	富士通フロンティアーズ	法政大学	188	120	26
OL	59	山本 祐介	やまもと ゆうすけ	オービックシーガルズ	北海学園大学	186	126	29
OL	66	望月 俊	もちづき しゅん	富士通フロンティアーズ	早稲田大学	180	120	26
○ OL	72	小林 祐太郎	こばやし ゆうたろう	富士通フロンティアーズ	日本大学	190	115	27
OL	75	黒川 晴央	くろかわ はるひさ	アサヒ飲料チャレンジャーズ	名城大学	190	127	26
OL	77	野田 健仁	のだ たけひと	アサヒ飲料チャレンジャーズ	大阪府立大学	193	142	29
OL	78	荒井 航平	あらい こうへい	LIXILディアーズ	日本大学	188	140	25
OL	79	勝山 晃	かつやま あきら	富士通フロンティアーズ	法政大学	186	123	25
WR	81	栗原 嵩	くりはら たかし	IBMビッグブルー	法政大学	180	85	27
WR	83	林 雄太	はやし ゆうた	アサヒビールシルバースター	日本大学	186	88	24
TE	88	春田 崇博	はるた たかひろ	富士通フロンティアーズ	大阪産業大学	182	95	30
DL	90	清家 拓也	せいけ たくや	オービックシーガルズ	関西大学	178	140	24
DL	92	紀平 充則	きひら みつのり	無所属	立命館大学	183	125	32
LB	96	澤田 遥	さわだ よう	オービックシーガルズ	関西大学	182	104	23
DL	99	高橋 伶太	たかはし りょうた	富士通フロンティアーズ	立命館大学	185	105	24

◎主将 ○副将

以上